

令和8年度
(2026年度)

施政方針

令和8年3月
長野県松川町

－ 目 次 －

1. はじめに	……	1
2. 前年度の振り返り	……	1
3. 令和8年度の基本方針	……	2
4. 主要施策	……	4
(1) 子育て支援	……	4
(2) シゴトづくり	……	5
(3) 移住・定住促進	……	6
(4) その他	……	6
5. 今後に向けた取り組み	……	8
6. おわりに	……	8

1. はじめに

昭和 31 年 9 月に大島村と上片桐村が合併し発足した松川町は、令和 8 年に 70 周年を迎えます。70 年の歩みは、先人たちが「自然と調和した暮らし」「人と人との絆」を大切に築き上げた礎の上に成り立っています。この節目に、私たちは改めて町の歴史と伝統に敬意を表するとともに、人口減少や健全財政の運営といった現代の課題に向き合う決意を新たにします。

さて、現在の日本経済は「賃金と物価の好循環」を目指す政策のもと、緩やかな回復基調にあります。2026 年度の実質 GDP 成長率は 1.3%前後と予測され、企業収益の改善や設備投資の増加が期待されています。一方で、少子高齢化による労働力不足や、社会保障費の増加、長期化する物価高騰などが財政を圧迫し、地方財政にも深刻な影響を与えています。

松川町は、「幸せを実感できるまちづくり」を目指し、給食費無償化や福祉事業の拡充を進めてきました。今後も「幸せ実感」を持続可能なものとするため、町民のニーズに応えていく所存です。継続的に子育て世帯の経済的負担軽減と教育環境の更なる充実を図り、移住・定住促進に関する施策と連動することで、少子化・人口減少対策に注力します。

また、国の交付金を活用し、令和 7 年 12 月補正予算の生活応援券事業に続き、水道基本料金の減免、プレミアム商品券事業などの実施により、生活者と事業者への物価高騰・経済対策を行います。一方で、持続可能な行財政運営のため、「選択と集中」による予算配分が求められます。予算編成方針の中でも、人件費、物件費の高騰に配慮しつつも必要な施策を実現させるための効果検証と再構築を指示したところです。

2. 前年度の振り返り

過去最大の予算規模となった令和 7 年度では、「子育て」「シゴトづくり」「移住定住」を直ちに取り組むべき重要課題として位置づけた上で、全方位的に積極的な予算配分をし、各種施策を推進しました。

保育園遊戯室のエアコン設置工事

新たに指定避難所として指定した町立保育園へ、避難所環境向上のため遊戯室へのエアコン設置を行いました。令和 7 年度は名子中央保育園、上片桐保育園、福与保育園への設置工事が完了しました。

部活動地域移行モデル事業の継続

令和7年度末に土曜日・日曜日の中学校部活動が廃止となります。代替となる「松川 CLUB」には文化系5クラブとスポーツ系9クラブが立ち上げられました。

ふるさと納税の推進

令和7年度におけるふるさと納税寄附額の見込みは過去最高となる7億円を見込んでいます。一般社団法人南信州まつかわ観光まちづくりセンターへ業務委託し、返礼品（特産品）などを通じて松川町のPRおよび産業振興に繋がっています。

図書館資料館長寿命化・LED化改修工事

老朽化に伴う町立図書館資料館の長寿命化工事を継続的に実施しています。令和7年度には冷暖房設備更新と照明LED化改修工事などに着手し、令和8年度中に完了する見込みとなっています。町民が集う学びの場を引き続き提供してまいります。

生活応援券事業

物価高騰重点支援地方創生臨時交付金を活用した、生活を守る物価高騰対策事業の第一弾として事業を開始しました。商品券は昨年度より増額し、一人あたり5,000円分と設定しました。食料品の価格高騰にも対応するため、使用可能店舗を従前の仕組みよりも拡充し、町内スーパーなどでも使用できるように仕組みづくりを行いました。

旧松川青年の家リノベーション

観光産業の推進による地方創生、持続可能な地域づくりを実現するため、旧松川青年の家グラウンドをオートキャンプ場とするリノベーション事業を行いました。誘客戦略を推進し、この地域の滞在時間を長くすることで観光以外の産業にも効果を波及させ、地域全体の活性化を図ります。

3. 令和8年度基本方針

令和8年度一般会計予算案の総額は95億4,000万円となりました。昨年対比14億1,000万円（+17.3%）の増額となり、過去最大だった令和7年度を大きく上回る予算規模となりました。

2025年人事院勧告に基づき給与改定などのあった人件費や、物価高騰による物件費の増加に加え、ふるさと納税寄附額の伸びに伴う関連事業費、福与河原圃場整備事業費、町道改良の事業化に伴う事業費の増加などが主な要因と分析しています。

特別会計、公営企業会計と合わせた松川町の予算総額は151億3,258万円となり、昨年対比19億8,826万円（+15.1%）の増額です。

表1. 会計別予算額まとめ

(千円)

会 計 別	R 8 予 算 額	R 7 予 算 額	対 前 年 度 比	
			増 減 額	増減率(%)
一 般 会 計	9,540,000	8,130,000	1,410,000	17.3
特 別 会 計	3,066,252	2,981,324	84,928	2.8
国民健康保険事業	1,218,077	1,228,324	▲ 10,247	▲ 0.8
後期高齢者医療	243,358	212,945	30,413	14.3
介護保険事業	1,591,364	1,526,644	64,720	4.2
発電事業	13,453	13,411	42	0.3
公 営 企 業 会 計	2,526,332	2,033,000	493,332	24.3
水道事業	747,576	464,234	283,342	61.0
下水道事業	1,164,654	1,035,586	129,068	12.5
信州まつかわ温泉清流苑事業	614,102	533,180	80,922	15.2
総 合 計	15,132,584	13,144,324	1,988,260	15.1

最重点施策（子育て・シゴトづくり・移住定住）

令和8年度は、第6次総合計画の将来像を実現するため、これに基づいた予算編成方針としました。

第6次総合計画「～しあわせ実感まつかわ～」では、『一人ひとりの幸せ実感を高めていく』ことを掲げ、“全ての施策を網羅するのではなく、4年間の計画期間内で特に進めたい重点分野を明確にしたうえで、施策に落とし込む”こととしていることから、予算編成も同調し特に進めたい分野へと重点的に配分

しています。

令和7年度に続き、「子育て」「シゴトづくり」「移住定住」を最重点施策と位置づけさらに力強く推進してまいります。

健全財政の維持

長期化するエネルギー価格や物価高騰に伴う公共施設の維持管理費・長寿命化に要する費用をはじめとした物件費の増加、人件費及び社会保障費の増加に加えて、リニア時代に備える社会基盤整備や産業振興など、将来に向けた大規模投資が避けられないことから、過剰な投資の抑制や国県補助金などの活用徹底、借り入れによる財政悪化の回避など、健全化への取り組みは必須です。

また、DX推進による業務効率化や業務量の見直し、環境に配慮した行政運営の推進に努めます。

4. 主要施策

令和8年度においては次の事業に注力して取り組みます。

(1) 子育て支援

給食費無償化事業

子育て世代の経済的負担軽減のため、将来世代への投資と位置づけ、引き続き保育園から中学校までの給食費を無償化します。これにより一人当たり年間約7万円～8万5千円の負担軽減につなげます。

英語教育の推進

未来を切り拓くたくましいグローバル人材を育成するため、「松川町英語教育推進プラン」に基づき、ALT（外国語指導助手）の配置を2名から7名に拡充するとともに、ALTコーディネーターを1名配置し、保育園・小学校・中学校それぞれの段階に合わせた英語教育を推進します。

保育園の環境改善事業

近年の異常気象ともいえる猛暑や厳しい寒さに対応するため、避難所として指定されている大島・双葉保育園の遊戯室にエアコンを設置します。災害発生時においては避難者の、日常的には園児の熱中症などのリスクを軽減します。また、上片桐保育園遊具更新、名子中央保育園中庭ウッドデッキ塗装工事、福

与保育園屋根長寿命化工事など環境改善事業を実施し、安心安全な保育園づくりを推進します。

中学校部活動地域展開推進事業

国・県の方針に基づき中学校部活動の地域展開が進められるなかで、中学生の休日活動の場として「松川 CLUB」を運営していきます。地域の主体性に寄り添いながら、子ども達のニーズに応じた活動ができる環境を整えていきます。

小中学校入学祝金

子育て支援を目的とした、小学校、中学校の入学時に祝い金を支給します。これまでひとり 20,000 円だった祝い金を、令和 9 年度入学分より小学生は 30,000 円、中学生は 40,000 円へ増額します。

こども誰でも通園制度

子ども・子育て支援金を活用し、「こども誰でも通園制度」を開始します。子育て支援センターにおいて、生後 6 か月から 3 歳未満のお子さんを 1 時間単位でお預かりし、保護者の育児負担の軽減、孤立の予防、お子さんの発達機会の確保を図ります。

(2) シゴトづくり

産業用地整備・利活用促進事業

雇用機会の創出、産業の振興や経済の活性化を目的として、企業誘致や既存企業の事業拡大のため産業用地の整備に向け、段階的な検討を進めます。

商店街等街路灯 LED 化改修事業

平成 16～21 年度に上新井地区および上片桐地区に設置した街路灯について、省エネルギー化および維持管理負担の軽減を目的として、水銀灯を LED 灯へ更新する工事を実施します。

アウトドアグランドデザイン委託事業

松川町は 65%を森林が占め、「フォレストアドベンチャー」、「およりての森」や「旧青年の家グランドを改修したオートキャンプ場」など、開かれた里山が整備されています。これらの一体的利用を促進するため、有識者による資源活用調査および資源を最大限活用するまちづくりを推進します。

(3) 移住・定住促進

移住促進対策の推進

昨年度より進めている旧国土交通省官舎の改修を完了させ、令和9年度には移住促進住宅の稼働により受け入れ体制を強化します。また、若者定住住宅取得祝金制度を継続し、若者をターゲットとした移住定住施策も図りながら、住まいや仕事探しに関するサポート事業を充実させます。

北小学校周辺エリア開発の検討

土地開発公社を活用して、松川北小学校周辺エリアにおける宅地分譲地の確保を進めています。並行して「旧上片桐専用側線」のあと土地利用については、地域の象徴となるような施設・空間を目指すため、基本構想の策定と設計者選定を進めます。

都市間交流事業

関係人口の創出を目的に、「リニア駅で繋がるマツカワ×シナガワ交流事業」の第3期を進めます。また、新井商店街を拠点に進めてきた、南信州クリエイティブコミュニティの活動を町内全域に拡大することを検討してまいります。

「ふるさと住民制度」との連携

令和7年度年度より企画検討している、NFTを活用したデジタル住民の運営を行い、さらなる関係人口の獲得と国のふるさと住民制度との連携ができないか検討します。

(4) その他

町制施行70周年記念事業

70周年という節目に、町民が主体となって企画・実施し、幅広い住民参加を通じて松川町の歩み、つながり、魅力を再確認する機会を創出します。あわせて70周年の機運醸成と対外的なPRを図り、第6次総合計画で示された将来像の実現に資する取組としていきます。

地域防災力の強化

立ち入り困難な場所への探索などを想定した防災用ドローンを新たに購入します。また消防車両2台の更新、消火栓の新設、消防団活動服の更新などを

行うことで、地域防災力の底上げを図ります。

地域の利用需要に適した公共交通対策

「チョイソコまつかわ」は運行開始から4年目となり、更なる町民の足となる仕組み作りを進めます。また、コミュニティバスについて、老朽化した車両の入れ替えとして新型車両を導入し、車内が混雑する通学時間帯の安全性と快適性を向上させます。

持続可能な地域を目指した自治運営

地域が抱える諸問題を把握、解決するとともに、区会、自治会などの自治組織が円滑に機能するよう、配置された集落支援員を活用しながら、ともに課題解決の道筋を模索します。また、指定避難所に位置付けられている上大島公民館のエアコン設置工事を実施すると同時に、地区公民館へのハード整備についても財政支援ができるよう検討を進めます。

地域活動支援センター事業

障がい者の交流や相談の場である地域活動支援センターでは、地域の不要品を循環させる事業の取り組みを開始します。「誰もが持ち寄り、誰もが持ち帰ることができる」仕組みをつくり、施設利用者が運営を担うことで、利用者が地域に関わる機会を設けるとともに、資源の有効活用に取り組みます。

社会福祉施設照明 LED 化改修事業

社会福祉センター及び特別養護老人ホーム松川荘について、照明 LED 化の改修工事を実施します。省エネルギー化により電気使用量を減らし、排出される温室効果ガスを抑制します。

道路改良・維持管理

主要幹線道路の整備事業として、町道大草線、町道福与部奈線、町道弥太沢線等の道路改良事業に着手し、道路拡幅改良・歩道設置を進めます。そのほか地元要望などに基づく道路改良・道路維持管理工事についても、限られた財源の中でできる限り要望にお応えできるよう予算を措置しました。

リニア関連事業

リニア中央新幹線関連事業として、引き続き発生土を活用した前河原道路新設改良事業や福与天竜井取水施設建設事業の工事を進めるとともに、今年度よ

り福与河原圃場整備事業の工事に着手し、地元整備組合とともに土地造成を進めてまいります。

アカモズと果樹文化の共生

国内希少動物種であるアカモズ保全の取り組みを継続します。引き続き、アカモズの実態調査を行うとともに、アカモズ保全の啓発を目的とした学習会の開催、絵本の制作等を実施し、アカモズを「優れた果樹文化と環境文化のシンボル」として、松川町の果樹文化と共生できる地域づくりを、地域内外の方々と協働で目指します。

町民体育館柔剣道場エアコン設置工事

町民体育館の柔道場・剣道場へ空調設備を新たに設置します。平常時のスポーツ振興と非常時の防災機能強化の両面から、町民の皆様が安心して利用できる施設づくりを推進します。

5. 今後に向けた取り組み

リニア駅と上伊那地域とを結ぶ南北交通の強化、災害時の物流確保、経済の活性化に向けた取り組みとして、県道 15 号バイパス、上片桐停車場線バイパス、国道 153 号線北バイパスの実現に向け精力的に活動を行うとともに、地域ブランドの向上や産業振興の拠点として“道の駅”に関する検討に着手します。

また、現在の情勢に見合った子育て環境の整備と、持続可能な財政運営とを両立させる観点から、保育園などのあり方について検討を開始します。

6. おわりに

過去最大を大きく更新する一般会計予算の編成となりましたが、この規模の拡大には、ふるさと納税の伸長、さらにはリニア中央新幹線の建設に伴う対策経費の増加が主な要因と分析しています。限られたの財源を、子育て支援、シゴトづくり、移住定住の重点施策を中心に、インフラ・防災対策、地域経済の活性化などバランスよく活用し、松川町の未来を確かなものにしてまいります。

また、予算規模が拡大する一方で、現役世代へ過度な負担を強いることなく、持続可能な財政運営・まちづくりを推進するために、適正な財源配分と新たな歳入確保にも取り組んでまいります。職員一丸となり、透明性と公平性を重ん

じた行政運営に努め、松川町のさらなる発展に全力を尽くしてまいります。

結びに、これまでの70年間を築き上げてこられた町民の皆様をはじめ、多くの関係者の皆様のご尽力とご支援に心から感謝申し上げます。これからも「一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ」を目指し、共に歩みを進めてまいりますので、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。